



# 令和5年度 勝山市立勝山中部中学校スクールプラン

勝山市教育大綱(学校教育)  
新しい時代にたくましく生きる力を育む  
(1)確かな学力・多様な学力の育成  
(2)家庭・地域・学校の連携推進  
(3)「ふるさと創生」の担い手育成

最上位目標(校訓)  
奮起・自主・協同

育成指針  
気づき、考え、自ら明日を創る生徒の育成

めざす生徒像  
・挑戦し、やり抜く生徒  
・誠実に行動できる生徒  
・自らあいさつができる生徒  
・後始末ができる生徒  
・誠意を持って、他者の話が聴ける生徒

研究主題「自ら課題を見つけ、課題解決に向かって活動できる生徒の育成」  
—生徒の主体性を引き出す働きかけの工夫—

## テーマと重点目標

### 教科部会

夢の実現のために、主体的に学ぶことができる環境を整える。  
・学力向上・読解力向上・キャリア教育

### 社会参画部会

地域や社会の担い手として活躍するための心と体を作る。  
・ESD・ふるさと学習・体力向上・健やかな体

### 生活部会

互いに快適な学校生活を送れるよう、生徒が主体的に考え、行動できる。  
・個別支援・環境整備・生徒指導・食育

### 特活部会

より良い学校生活について生徒が主体的に考え、行動できる。  
・デジタルシティズンシップ・学級経営・生徒会活動

## 具体的な実践プロジェクトと評価

### ◆学力アッププロジェクト

生徒1人1人が基礎学力の定着を意識し、主体的に学ぼうとする学習環境を整える。  
【評価】主体的に学習に取り組むことができた。(90%以上)

### ◆読解力向上プロジェクト

読書や新聞閲覧、授業などを通して、日々の学習や探究的な学習に生かすことができる読解力を身につける。  
【評価】読書やNIE、授業の中で様々な情報に触れ、自分の考えを広げたり深めたりしながら学びを進めることができた。(80%以上)

### ◆進路実現プロジェクト

マイプランニングノートの活用や体験活動を通して、夢や目標に向かって努力する意欲を高める。  
【評価】マイプランニングノートや体験活動で学んだことを生かしながら、自分の将来について考えることができた。(80%以上)

<最上位目標と育成指針>自らの人生を自らの手で切り開くには、何気ない日々の生活に主体性が根付いている必要がある。そこに、自主性と仲間との共同性が備わることで、答えの見えにくい課題に向けて多様な他者と協力して、気づき、考え、行動する生き方が育まれる。

### ◆ゆとりプロジェクト

生徒同士や教師も含めて、相手を気遣い、思いやりを持って関わることで、全員が自分らしく活動できる学校の風土を作る。  
【評価】仲間と認め合い、協力して、自分らしく学校生活を送ることができた。(80%以上)

### ◆ふるさと創生プロジェクト

ふるさと勝山の魅力を再発見し、視野を広げ、発信するとともに課題解決に向けた提案をすることで、思考力・判断力・表現力を身につける。  
【評価】探究的な活動を通して、地域の魅力を再発見し、設定した課題を解決する中で、勝山の良さについて考えることができた。(80%以上)

### ◆体力アップアッププロジェクト

健康で活力ある生活に向け、授業や部活動等を通して、進んで体力作りに取り組むことができる。  
【評価】授業や部活動、行事等を通して、自らの体力を向上させることができた。(80%以上)

### ◆すこやかプロジェクト

基本的な生活習慣が心と体の健康に結びつくことを意識し、健康な生活を心がけることができる。  
【評価】健康な生活を心がけた。(80%以上)

### ◆生徒指導の自分事化プロジェクト

生徒が中心となって、お互いに気持ちよく学校生活を送ることができる自治的な仕組みを作る。  
【評価】気持ちのよい学校生活のために、自分の行動を振り返り、各委員会の取組に参加した。(80%以上)

### ◆食教育推進プロジェクト

委員会活動や授業を通して、食に関心を持ち、自分の未来のために食を考えることができる。  
【評価】感謝の気持ちを持ち、給食に向き合うことができた。(80%以上)

### ◆インクルーシブプロジェクト

生徒同士や教師も含めて自分の思いを伝え合い、互いの思いを知り、認め合い、支え合う学校風土を育む。  
【評価】仲間1人1人の個性や考え方を認め、尊重し合うことができた。(95%以上)

### ◆環境美化プロジェクト

美化活動や環境保全活動を通して、生徒自ら気持ちのよい生活環境を作る。  
【評価】黙勤清掃や委員会活動を通して、自分たちでより良い環境づくりに取り組むことができた。(90%以上)

### ◆『デジタルシティズンシッププロジェクト』

生徒1人1人が、ICT機器の長所と短所を理解し、適切に使うことができる。  
【評価】タブレットを大切に、時間や場所を考えて適切に使うことができた。(90%以上)

### ◆『学級経営の深化プロジェクト』

生徒1人1人が学級・学年の一員として、自分ができることを考え、行動することができる。  
【評価】学級活動で、話を聴く時と楽しむ時のメリハリをつけて活動することができた。(90%以上)

### ◆『生徒活動活性化プロジェクト』

生徒1人1人が活動を通して、目標や夢を持ちその実現に向けて考え協力し、より良い学校生活にするために行動することができる。  
【評価】より良い学校生活について考え、目標に向かって活動することができた。(90%以上)

<組織体制>各部会とも3~4名の教員で構成する。生徒の実態から取り組むべき3~4つのプロジェクトを部会で企画し、メンバーで協働しながら実践する。なお、プロジェクトの発案や進捗状況確認の際は、2つの部会で合同会議を持ち、部会の外からの意見を取り入れながら評価、修正を行い、実践を重ねることとする。